

読

Yomiuri  
Nippon  
Symphony  
Orchestra

響

怖くなんかありません。

Elgar: The Dream of Gerontius op. 38

Conductor Ivor Bolton

Mezzo Soprano Beth Taylor

Tenor Thomas Atkins

Baritone Christopher Maltman

Chorus New National Theatre Chorus

Chorusmaster Kyohei Tomihira

YNSO Subscription Concert No. 657

Tue. 28 Apr. 2026, 19:00 Suntory Hall

天使は優しくいざなう。死に立ち向かう魂を。

エルガー：オラトリオ「ゲロンティアスの夢」作品38

指揮 アイヴァー・ボルトン

天使(メゾ・ソプラノ) ベス・テイラー ゲロンティアス(テノール) トーマス・アトキンス

司祭/苦悩の天使(バリトン) クリストファー・モルトマン 合唱 新国立劇場合唱団

(合唱指揮 富平恭平)

読売日本交響楽団 第657回 定期演奏会

2026年4月28日(火) 19:00 サントリーホール S ¥11,000 / A ¥8,800 / B ¥7,200 / C ¥5,500

読響チケットセンター 0570-00-4390(10時-18時・年中無休)

主催: 読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団 協力: アフラック生命保険株式会社

英国の名匠ボルトンが、  
“死”という究極の旅立ちを  
世界的歌手とともに描く  
一期一会の演奏会

Conductor

# Ivor Bolton

指揮  
アイヴァー・ボルトン

2019年読響「第九」演奏会を成功へと導いたイギリスの名匠が待望の再公演。ウィーン国立歌劇場、英国ロイヤル・オペラなどで活躍するほか、ザルツブルク音楽祭などにも出演。ロイヤル・コンサートヘボウ管、ウィーン響、チューリヒ・トーンハレ管など欧州の主要楽団に客演を重ねている。これまでにスコットランド室内管首席指揮者、バーゼル響首席指揮者などを歴任し、現在はマドリッド王立劇場音楽監督、ドレスデン祝祭管首席指揮者、ザルツブルク・モーツァルテウム管桂冠指揮者を務める。CDやDVDも数多く、ブルックナーの交響曲全集のほかヘンデルやモンテヴェルディなどをリリリースし好評を博している。

©Nancy Horowitz

人は死を迎える時、どんな感情を抱くのだろうか。怖れ、苦しみ、迷い、諦め……そして魂はどこへ向かうのか。エルガーの最高傑作とされる「ゲロンティアスの夢」の主人公は、ギリシャ語の「ゲロン」(老人)に由来する名を持つ一人の老人。彼が生涯の終わりに見る「夢」は苛烈で無慈悲に始まる。その魂は死後、悪魔に嘲笑されるが、現れた天使に導かれて神と出会い、浄められ、最後に穏やかな眠りにつく。すべての人が直面する「最期の瞬間」をこれほどリアルに描いた音楽があるだろうか。

オーケストラと合唱、オルガンからなる大編成の音楽は、ワーグナー風のライトモチーフ(示導動機)を幾重にも重ね、ゲロンティアスの魂の彷徨を壮大なスケールで響かせる。多彩なオーケストレーションと英国伝統の精緻な合唱、息もつかせぬドラマティックな展開はエルガーの真骨頂だ。有名な「エニグマ変奏曲」や「チェロ協奏曲」にも通じる朗々としたメロディーは聴く者の心を揺さぶる。

およそ6年半ぶりに読響の指揮台に立つアイヴァー・ボルトンは、これまで透明な響きと躍動感あふれるテンポで唯一無二の演奏を聴かせてきた。2019年の知的な刺激に満ちた「第九」を憶えているだろうか。今回は敬愛する自国の作曲家だけに、さらに腕によりをかけて作品に新たな光を当ててくれるだろう。天使役のベス・テイラー、ゲロンティアス役のトーマス・アトキンスらの独唱と新国立劇場合唱団もベストの配役。1回限りの公演が惜しくなる。

聴き手は歌詞の一語一句を追う必要はない。時の流れに身を委ね、音楽に導かれるまま、約1時間半の旅路を経た後に、あなたの心の内奥では、何かが変わっているだろう。



Mezzo Soprano  
Beth Taylor

天使(メゾ・ソプラノ)  
ベス・テイラー

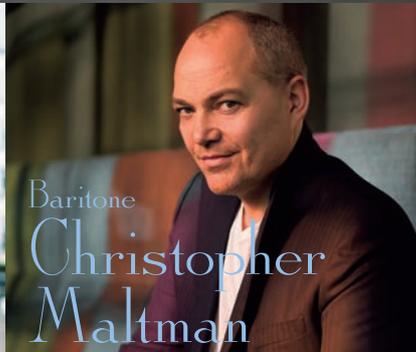
深遠な音色と抜群の技術で頭角を現すメゾ・ソプラノ。スコットランド王立音楽院で研鑽を積み、ベルリン・ドイツ・オペラ、チューリヒ歌劇場、ザルツブルク音楽祭、BBCプロムスなどに出演し、ロッシニからワーグナー作品まで幅広いレパートリーを歌い好評を博している。ラトル、ベトレンコら名匠の指揮でベルリン・フィル、ミュンヘン・フィルなど著名楽団と共演。2025年にはカーネギーホールにデビューしたほか、ドゥダメル指揮のロサンゼルス響とマーラーの交響曲第2番でロサンゼルス皮切りに東京、ソウルなどアジアツアーを行い、成功を収めた。



Tenor  
Thomas Atkins

ゲロンティアス(テノール)  
トーマス・アトキンス

卓越した表現力と豊かな声色で活躍する鋭鏡。ニュージーランド音楽学校とギルドホール音楽演劇学校で学んだ後に、英国ロイヤル・オペラのジェット・パーカー・アーティストとして活躍。近年はバイエルン国立歌劇場、パリ・オペラ座で(ラ・ボエーム)ロドルフォ、(カルメン)ドン・ホセで出演。BBC響やロンドン響とペーターヴェン(ミサ・ソレムニス)、ヘンデル(メサイア)で共演し好評を博す。2025/26シーズンはベトレンコ指揮ザルツブルク音楽祭の(ラインの黄金)フローで出演するほか、マケラ指揮のバリ管と共演するなど活躍の場を広げている。



Baritone  
Christopher Maltman

司祭/苦悩の天使(バリトン)  
クリストファー・モルトマン

重厚な音色で世界的人気を博すドラマティック・バリトン。英国王立音楽アカデミーで学び、英国ロイヤル・オペラデビュー。(ドン・ジョヴァンニ)表題役で一躍脚光を浴び、その後(魔笛)パパゲーノ、(シモン・ボッカネグラ)表題役など幅広いレパートリーで出演。近年は(トスカ)スカルピア、(ニーベルングの指環)ヴォータンなどドラマティックな役柄を得意とし、ウィーン国立歌劇場、ベルリン国立歌劇場、ザルツブルク音楽祭などで世界で活躍。コンサートでは、シカゴ響、フィルハーモニア管、BBC響、ロンドン響、ボストン響などと共演を重ねている。

Chorus  
New  
National  
Theatre  
Chorus

合唱  
新国立劇場合唱団  
合唱指揮= 富平 泰平

読響と毎年共演を続ける、日本を代表するプロ合唱団。新国立劇場で行われる数多くのオペラ公演の核を担う合唱団として活動を展開し、高い評価を得ている。今年1月には、ヴァイグレ指揮のフィッツナー(ドイツ精神について)で読響と共演し、絶賛された。

読売日本交響楽団 第657回 定期演奏会

2026年 4月28日(火) 19時開演

サントリーホール

東京都港区赤坂1-13-1 Tel. 03-3505-1001

S ¥11,000/A ¥8,800/B ¥7,200/C **50% OFF**

●東京メトロ南北線「六本木一丁目」駅(3番出口)より徒歩約5分 ●東京メトロ銀座線「溜池山王」駅(13番出口)より徒歩約7分

学生券 学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証/25歳以下)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。■都合により曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。■ご購入いただいたチケットは、公演が中止になった場合以外でのキャンセル・払い戻しはできません。あらかじめご了承ください。■未就学児のご入場は、固くお断りいたします。

読響チケットセンター 0570-00-4390

\*10時~18時・年中無休

読響チケットWEB <https://yomikyo.pia.jp/>

\*座席選択可/チケット郵送料無料



プレイガイド

サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017

読響ホームページ

<https://yomikyo.or.jp/>